

その他の仮設物、建築物、構築物等を起因物とする墜落・転落の死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	3	8 ～ 10	被災者は、造船所内の船の引渡し式の横断幕を支えるために単管パイプとクランプで構成された構造物（東西約43m、南北約7m、高さ4.5m）を式終了後に解体する業務に従事し、高さ約2.7mの単管パイプの上に乗リクランプを取り外そうとしたところ、単管から墜落し、死亡したもの。被災者はヘルメットを被り、2丁掛けの要求性能墜落制止用器具を着けていたが、そのフックは未使用であった。	11501	1～9
2021	4	14 ～ 16	鉄筋コンクリート造建物の新築工事において、6階床スラブの型枠支保工を角型鋼管及びパイプサポート支柱等で補強した荷置き用構台（以下「荷置き用構台」という。）に鉄筋工事業者が鉄筋の束（約13トン）を乗せた後、被災者（二次下請労働者）が、6階床スラブの墨出し作業のため、当該荷置き用構台上に乗っていたところ、荷置き用構台が崩壊して約4m下の5階床に墜落し、鉄筋の束等の下敷きになって死亡したもの。	30203	10～29
2021	6	8 ～ 10	神社の境内において提灯かけに電線を設置するため、玉垣の上（高さ129.7センチメートル）で作業していたところ墜落したもの。被災者はその後入院加療を続けていたが、死亡したもの。	170209	1～9
2020	1	10 ～ 12	スクラップとするため岸壁上に移送、仮置きされた使用を廃止したアンローダの解体にあたり、被災者は、アンローダAフレーム頂部と接続されている後方ステーを取り外すため、後方ステーのAフレーム接続箇所付近をAフレーム頂部点検台上（高さ約40m）でガス溶断したところ、アンローダ前方カンチレバー部分が崩壊、Aフレームは前方カンチレバーと接続されており崩壊とともに折れ曲がり、被災者が投げ出され地上へ墜落した。	30302	1～9
			工場の冷却塔設置工事において高さ約4メートルの冷却塔屋上より、緩衝材		

2020	3	14 ～ 16	を外装版の間に詰める作業を行うにあたり、被災者は要求性能墜落制止用器具を使用せずに屋上床面の端より身を乗り出して作業をし、バランスを崩し約4メートル下へ墜落した。大学付属病院に搬送され、入院加療中であったが、後日死亡した。	30302	～ 9999
2020	6	16 ～ 18	災害発生当日、躯体4階において、上記被災者を含む6名は共同で、R階スラブの型枠解体作業（型枠を解体し、解体したコンパネ又は型枠支保工を台車に乗せて作業構台まで運搬し、作業構台から移動式クレーンにより積み降ろす作業）を行っていた。クレーンオペレーターが被災者が落下しているところを目撃。墜落の瞬間を目撃した者はいない。作業構台上には、コンパネ31枚を乗せた台車（約400kg）があった。	30209	1～9
2020	8	8 ～ 10	被災者は、着岸した船舶からガントリークレーンを用いて、荷であるコンテナを地上に降ろす際の補助作業（コンテナ移動後のコンテナ倒壊防止金具の取り外し作業）を行っていた。2段目コンテナの金具を取り外した後、2段目コンテナ横に設置されていた作業構台（高さ5・3メートル）から、1段目のコンテナ上に移動する際に、何らかの理由により作業構台から、作業構台下の甲板に墜落し、後刻死亡したものの。	50202	30～ 49
2020	9	14 ～ 16	現場はダムに設置された水門の塗装工事現場である。塗装の前工程として、水門周辺の既設通路の上で水門の養生作業を行っていたところ、4・5メートル下のコンクリート製の取水路に墜落したものと推定する。被災者は脳挫傷により死亡した。	30209	1～9
2020	12	8 ～ 10	被災者が、マンションのベランダへ防鳥ネットを確保するためロープ高所作業を行うにあたり、メインロープ及びライフラインいずれも同一の配管架台用支柱に固定して降下したところ、途中で支柱が倒れて、いずれのロープも抜けて地上に墜落したものの。なお、支柱の基礎は特に固定措置がされていなかった。	30309	10～ 29
2019	8	16 ～ 18	被災者は木造2階建住宅の解体工事中に外部養生のための丸太を組み立てしていたところバランスを崩し約6メートル墜落した。	30202	10～ 29

2019	12	8 ～ 10	地上約9.5メートルの高さにあった（鉄道の軌道高架の下から張り出していた型枠支保工の部材である）型枠板から地上まで墜落したもの。なお、被災当日、被災者が入場するまでに、別の関係請負人の労働者が、型枠支保工解体のため、最上部の型枠板を残して、型枠板の下にあった部材（角パイプ等）を撤去していた。	30105	10～ 29
2018	5	14 ～ 15	工事現場において、被災者は地下2階の天井部（スラブ下）にワイヤ固定吊具などを取り付ける作業を土止め支保工上で行っていた。当該天井部は、高所作業となるため、足がかりとして、土止め支保工の火打部分にクランプ2個を用いて、単管を立てて取り付けた。当該単管に被災者がよじ登り、天井部付近で作業していたところ、単管を固定していたクランプ1個が外れ、単管が横に倒れ、被災者は単管から約4.5m下に墜落した。	30201	1～9
2018	8	12 ～ 13	生産設備に組み込まれたリフターの月例点検のため、現地へ出張し、ホイスの操作ボックスを開いて運転操作をしていた被災者が、足がかりにしていた搬器の囲い又は手すりから約4.7m下方に置いてあった金型上に墜落し、死亡した。	170209	1～9
2017	3	14 ～ 15	ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外面に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取り付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	30209	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外面に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取り付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	30209	10～ 29
		14	建築物解体工事において、単管、緊結金具、ベース金具及び防音シートで構		

2017	4	～ 15	成された仮設養生の解体作業に従事していた被災者が、高さ 5. 3メートルの単管の水平材上から墜落、加療中であつたが死亡した。	30202	1～9
2017	4	22 ～ 23	被災者は会社の歓迎会の幹事業務終了後、A駅から同僚と電車に乗り、B駅からは同僚と別れた。C駅で下車するものと思われたが、翌日の午前5時過ぎ、駅の線路側溝に倒れているところを発見され、病院に運ばれたが死亡が確認された。	11209	10～ 29
2017	5	14 ～ 15	プラットフォームの縁に立ち、後進してくるトラックを誘導していた被災者が、約 1. 2メートル下のコンクリート面に転落した。目撃者によれば、被災者の倒れていた姿勢から転落の際受け身を取るような動作はしておらず、頭から地面に転落した模様。	80202	1～9
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約 3. 6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約 3. 6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約 3. 6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	1～9
		10	輸入トウモロコシを入れていた空サイロ内部において、サイロ内壁面に付着しているトウモロコシ粉（以下、「ダスト」という。）をかき落とす作業をサイロ底部から 1. 9 m付近で、中央部で垂直に延びる燻蒸用配管に背中		10～

2017	9	～ 11	を、両足をサイロの逆円錐部分に押し当てる姿勢で行っていたところ、底部に墜落し、そこに次々に壁面からダストがはがれ落ちたため埋もれた。約2時間後心肺停止状態で救出、窒息による死亡が確認された。	80401	29
2017	12	～ 15	被災者は建物の2階の窓ガラスの清掃を行うため、窓のさんの上に立って作業を行っていたところ、体勢を崩し、6.5m下の地上へ墜落した。被災者は着用していた安全帯のカラビナ（道具保持用）にロープを通し、同僚へ持っておくよう指示し、作業を行っていたものの、被災者が墜落した際、同僚は墜落時の衝撃に耐えることができず、ロープを途中で離れた。	150101	10～ 29
2016	2	10 ～ 11	高さ31メートルの立体駐車場等の解体工事現場において、粉じんの飛散養生等のため、立体駐車場の外周に設けた単管組みに、防音パネルを取り付ける作業を5名で行っていたところ、そのうちの1名が単管組みの水平材である単管上から約15メートル墜落し、同日死亡した。	30201	1～9
2016	4	10 ～ 11	会社7階の事務室の喫煙スペースの回転窓から高さ約21メートル下の道路に転落して死亡した。	11709	50～ 99
2016	10	9 ～ 10	格子型のコンクリートで養生された高さ約15メートルの法面の雑木除去作業において、雑木除去後の法面の清掃中、地面からの高さ約8メートルの地点で安全帯を外したところ墜落し、地面に頭部を強く打って死亡した。	30201	30～ 49
2016	11	14 ～ 15	共同住宅の建設工事において外部足場に付設する防護棚（朝顔）の設置作業を行っていた作業員が、付設済みの防護棚の端から約11.8メートル下の地面に墜落した。	30201	100 ～ 299
2015	7	0 ～ 1	被災者は、作業構台（約3m×3m。手すり、中さん、幅木設置有）上に設置されていたソーラーパネル4基（1基：パネル2枚を架台に取り付けたもの。架台1720×1420mm。約50kg）を撤去するため、架台の番線切りやクレーンの玉掛補助作業を行っていた。2基のソーラーパネルが撤去され、被災者は作業構台上で3基目の架台にスリングロープを一人で掛けようとした際、12.45m下に墜落した。	30105	10～ 29

2015	7	13 ～ 14	被災者は朝から一人で事業場所有の柚子畑およびその周辺の草刈り作業を行っていたが、終業時刻になっても事業場に戻ってこないため搜索したところ、柚子畑近くの谷川で死亡しているのが発見された。	60101	1～9
2015	11	14 ～ 15	木造２階建て建物の解体工事現場において、建物の周囲に仮設した単管の骨組みへの養生（飛散防止用）シートの取り付け作業中、２階の屋根上（高さ６．０１ｍ）で当該作業を監督していた労働者が、単管の骨組みから外側に約１ｍ４０ｃｍ離れた道路上に墜落したもの。被災者の災害発生時の状況は不明であるが、災害発生１０分前に、被災者が単管の骨組み上部にいたところが目撃されている。	30202	1～9
2015	8	21 ～ 22	被災者は、警備員として勤務中、本来の勤務場所から離れた箇所である中劇場２階客席間の移動壁の縦穴（深さ約３メートル、幅約４６センチメートル）から墜落して被災した。（どういった理由で当該場所に立ち入ったのかは不明）被災直後に被災者は自らＰＨＳで会社に連絡し、別の労働者によって発見・救出された。	170201	1000 ～ 9999
2015	3	11 ～ 12	被災者は、室内にある高さ２．１５メートルの喫煙ボックスの上に職長と共に鋼製足場板を１枚ずつ敷き、その上に乗り部屋の天井に部材を取り付ける作業をしていたところ、何らかの原因で鋼製足場板から足を踏み外し、墜落した。	30203	1～9
2015	4	16 ～ 17	高さ約３．４ｍのラックの上に乗って、パレットの上に乗せた荷をフォークリフトから作業員２人でラックの上の上に敷いた平板の上に引っ張りこんだ後、ラックの上移動していた際に、バランスを崩してラックから墜落したものの。	40301	10～ 29
2014	2	15 ～ 16	ワイヤーメッシュ（２メートル×４メートル、５０枚、１．７７５トン）を２５トンラフタークレーンで吊り、作業構台に載せたところ、作業構台がたわみ、被災者がクレーンの躯体側ワイヤーを外し、次いで外側のワイヤーを外そうとして作業構台を１、２歩歩いたところ、作業構台を支えていたクランプが外れ、被災者が墜落した。	30201	10～ 29
			古紙をプレス機（圧縮機）で固める作業中、被災者はホッパー投入口でホッ		

2014	6	9 ～ 10	パー内に貼り付いた古紙を竹箒で剥がしていたところ、停止していたベルトコンベアが動き出し、ホッパーへ転落し、プレス機（圧縮機）内で全身を挟まれた。	80109	10～ 29
2014	6	15 ～ 16	倉庫内で作業をしていた同僚が、物が落ちたような音を聞き、確認に行ったところ、倉庫内で棚に置かれている荷の品番と在庫数を確認する在庫管理を行っていた被災者が、床に倒れているのを発見した。	80401	10～ 29
2014	7	14 ～ 15	型枠のリムを足掛かりに高さ1.5mまで上り、高さ3.5mの砂防擁壁の型枠の脱型終了後、下流方向に移動していたところ、地上に置かれていた鋼製型枠に顔を打ち付け、転倒した。	30107	10～ 29
2014	8	14 ～ 15	ケーブルテレビ線からのアース線の接地作業中、被災者が電柱上でアース線の取付作業を行っていたところ、高さ6.5mの柱上から地面に墜落した。	30301	1～9
2014	9	11 ～ 12	アパート（3階建）の屋上にて、携帯電話の配線、端末設置作業中、屋上から3階へ下りた際、昇降ステップより墜落。3階腰壁の手すり（屋上から2.3m下）にぶつかり、6.9m下の1階の敷石床に激突した。尚、被災者は作業着、安全帽、滑り止めの作業靴、ハーネス型の安全帯を着用していた。	30301	1～9
2013	12	16 ～ 17	被災者は、高さ約13メートルの法面にて、落石防護網の設置作業を行っていた。法面に立てられたH鋼に、取り付けていた水平方向の単管に足をかけて作業を行っていたところ、単管が下方向にずれ、被災者は13メートル下の地上に墜落した。	30199	1～9
2013	12	13 ～ 14	剪定を行うため、高さ3mの藤棚に登って作業を行っていたところ、誤って墜落した。尚、目撃者おらず詳細は不明である。また、安全帯は着用していたが使用しておらず、ヘルメットも着用していなかった。	140302	10～ 29
2013	1	8 ～	本社建物において、正面玄関脇で床面の清掃していた清掃員が、ドンという音を聞いたため、音のした場所に行ったところ、建物東面に設けられた非常用バルコニーの直下から北西に2メートル離れた位置で地面に倒れている被	30203	100 ～

		9	災者を発見した。被災者は、発見された直後に病院に搬送されたが、死亡した。		299
2013	8	11 ～ 12	被災者と事業主の2名は、地質調査の目的で使用したボーリングマシン（高さ約11メートル）のやぐらを解体するため、2名でやぐらを構成する単管～に乗り、やぐら上部の解体を開始した。事業主が先に地上に降りて、やぐら上部で被災者が一人で作業を行っていたところ、被災者は高さ約9メートルの位置から地面に墜落した。	170209	1～9
2012	1	17 ～ 18	マンション建築工事現場にて、当日予定分のコンクリート基礎杭の打設作業が終了し、打設作業で使用した機械設備（コンクリート製造用プラント）の後片付けを行っていた被災者は、同機械設備と杭打機との間の地面で、頭から血を流して仰向けに倒れていたところを同僚労働者に発見された。	30201	10～ 29
2012	2	9 ～ 10	被災者は大根棚（竹製の柱で組まれた三角やぐら）の上に乗し、干し大根の収穫作業に従事していたところ、誤って大根棚の7段目（高さ約2.9m）から畑上に転落し、救急搬送先の病院で死亡した。	60101	1～9
2012	10	13 ～ 14	貯水池モーター修繕工事にあたり、作業員4名がクレーン搬入路造成のため、法面に土嚢を積む作業を行っていた。コンクリート地面に土嚢を5段、階段状に積み重ねた箇所（コンクリート地面からの高さ約4m）で、被災者がドラグショベルで運ばれた土砂を土嚢間に詰める作業を行っていたところ、誤ってバランスを崩してコンクリート地面まで転がり落ち、さらに約6m下の貯水池に転落した。	30106	1～9
2012	11	15 ～ 16	被災者は可搬式作業台（高さ約2m）の上で中腰の状態で電線管に墨付けを行い、可搬式作業台の上でしゃがんで右に体をひねるようにして、横で控えていた作業員に墨付けをした電線管を手渡した後、バランスを崩し当該可搬式作業台から転落した。	30301	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	木造二階建住宅を解体する工事にて、飛散防止のネットを取り付ける単管を格子状に三層で組み立てる作業中、被災者は、二層目の単管上（高さ約4m）に立って三層目の単管を取り付けようとした際にバランスを崩し、地面まで墜落し、死亡した。	30209	10～ 29

2012	4	16 ～ 17	3階建て鉄骨S造の屋上防水工事の施工中、被災者はトイレに行くため建物壁面に沿って設置されていた資材揚げおろしのための構造物（足場部材および電動ウィンチにより構成される）をつたって降りようとしたところ、高さ約9mの位置から足を踏み外して落下した。	30201	1～9
2011	5	10 ～ 11	被災者は牡蠣の殻を剥く作業台の上に乗し、2. 8トンの天井クレーンで吊ったスチール製のかごの底を開いて、作業台に牡蠣を置いた後、作業台から降りようとしたところ、足を滑らせ、高さ1. 27mより墜落し、コンクリート床で頭部を打撲し、30日未明に死亡したもの。	10102	10～ 29
2011	2	16 ～ 17	マンション新築工事の地中梁圧接作業の補助をしていた労働者が、高さ3. 4メートルの配筋された鉄筋上から墜落したもの。	30201	1～9
2011	7	16 ～ 17	型枠支保工の解体作業中、解体した型枠材を3m上のスラブ上に荷上げていたところ、スラブ上で部材の受取り作業をしていた被災者が約8m下の地面上に墜落したもの。荷上げ作業は2人で1班、上下に別れて手渡しで部材の受け渡しを行うというもので、スラブ上には親綱が設置されていた。被災者は安全帯は装着していたが、災害時は親綱に安全帯を掛けていなかった。	30102	1～9
2011	5	19 ～ 20	被災者が廃液を処理する生物処理槽等の巡回をしていたところ、処理槽上部の蓋板に載った時に、蓋板が傾き外れたため、蓋板とともに深さ4. 15メートルの処理槽に墜落した。処理槽内は槽の下部より送気することで、曝気していることから、廃液が激しく回転して流れている。	11409	100 ～ 299
2010	12	9 ～ 10	マンションの敷地内に設置された地上4段方式の立体駐車場の解体工事現場において、被災者は立体駐車場の4段目の位置（高さ5. 9m）にあったパレット（駐車用の鉄板、幅2. 1m、長さ4. 5m、重量約500kg）上において解体作業を行っていたところ、被災者が動力伝導用チェーンの連結ピンを外したことにより、つり上げられていた当該パレットが落下し、被災者も一緒に墜落した。	30309	1～9
2010	6	11 ～	水槽内部の木材を確認するため、水槽上部に上がり、幅の狭い縁（高さ1. 56m）を歩いていた際、水槽の縁から転落し、頭部を床面に打ちつけ死亡	10402	1～9

		12	した。保護具等を着用していなかった。		
2010	5	16 ～ 17	木造家屋解体工事現場において、単管とクランプで飛散防止養生枠を組立て作業中、2層目にいた被災者は、単管を持ったままバランスを崩し、直下のコンクリート土間へ約4 m墜落し、頭部を負傷した。その後被災者は10日後に、収容先の病院で死亡した。作業床を設けておらず、安全帯を使用していなかった。	30202	10～ 29
2010	5	17 ～ 18	婦人バッグ等の製造卸しを営む事業場の倉庫において、クロスサポーターにより積み上げていた段ボール入りの商品を取ろうとして、被災者がコンテナをよじ登っていたところ、足を滑らせ墜落した。	80109	30～ 49
2010	4	14 ～ 15	被災者は、雨よけのために設けられた軒状に張り出したテント地で出来た屋根（高さ5.6 m）のふち付近から、転落したものと推測される。災害の現認者もなく、災害時の作業内容等は不明である。墜落防止措置を講じず、安全帯等も使用していなかった。	170209	1～9
2010	4	15 ～ 16	民家の解体工事において、近隣への飛散防止のための養生シートを設置するにあたり、養生シート設置用の骨組みを丸太足場の部材で作成し組み立てていたところ、約4 m下の地上に墜落したものの。骨組みの壁つなぎを民家に固定する時、当該壁つなぎに足をかけた際に壁つなぎが破損したとみられる。	30202	1～9
2010	4	15 ～ 16	4階建てビルの屋上に設置してある広告塔撤去工事において、被災者がワイヤロープを持ち広告塔の周囲に設置した丸太足場の養生シートの外側に出ていたところ、強風の影響もあってバランスを崩し、9.9 m下の線路脇に墜落した。その際、ワイヤロープが架線に接触したためショートし、「ドン！」という音とともにスパークしたものの。	30209	10～ 29
2010	3	9 ～ 10	コミュニティセンターのホールで、ステージに祭壇を設置する作業を6人で行っていた時、被災者は祭壇の2段目、同僚が3段目で幕を取り付けていたところ、被災者がバランスを崩して転倒し、ステージ下まで1.3 m墜落した。救急車で病院に搬送されたが死亡した。	170209	10～ 29
			穀類乾燥施設増設工事で被災者らはサイロ用昇降機の水平垂直位置調整作業		

2010	3	9 ～ 10	に従事。被災者は位置調整ため昇降機の上部振れ止め（仮止め）鉄骨材の固定ボルトを緩めるため昇降機側面の補強材（角パイプ）を梯子代わりに昇って行き、下部振れ止めの水平鉄骨材に手を掛けたところ、ボルトが別の鳶工により取り外されていたため鉄骨材とともに約7.0m下のコンクリート床面に墜落したもの。昇降用安全親綱等（ロリップ等）の設置は無かった。	30209	1～9
2009	3	12 ～ 13	電話通信設備の修理作業を行うため電柱に昇り高さ約5mの箇所です安全帯をかけようとして誤って墜落した。	110101	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	被災者は、個人宅のガス配管の取替工事において、高さ約1.4mの脚立に昇り、軒上のガス配管を取り付ける作業を行っていたが、当該作業が終了したため、当該脚立から降りようとしていたところ、当該脚立が倒れてコンクリートの地面に転落し、身体を強打した。	30203	50～ 99
2009	8	11 ～ 12	被災者は、木造2階建ての個人住宅新築工事現場において、2階の階段手すりに長さ2.5m、幅19.5cm、厚さ3.5cmの木製の足場板を置き、固定していない状態の当該足場板に座って塗装用ローラーで内部階段の側壁の塗装作業を行っていたところ、足場板上から2.725m下の階段踊り場に墜落した。	30309	1～9
2009	6	14 ～ 15	事業場内において細砂運搬用のベルトコンベヤーを解体するため、同コンベヤー上で作業員2人がガス溶断の作業を行っていたところ、同コンベヤーの支柱が倒壊し、作業員2人がおよそ8.5m下に墜落した。	10909	10～ 29
2009	8	8 ～ 9	型枠解体作業の段取りをしていた被災者が、仮設照明が点かないため分電盤を確認に行き作業場所に戻る際、通路を通らず近道しようと転落防止柵を乗り越え、外部足場の妻側の端に足をかけてよじ登り、底に移ろうとしてバランスを崩し、高さ3.2mの箇所からコンクリートの地面に墜落した。	30201	1～9
2009	10	13 ～ 14	被災者は朝から協力会社の資材センターで産業廃棄物の運び出し及び清掃作業等を行っていた。昼食後は物置等に使用されているコンテナの屋根に底を付ける作業を行うため、当該コンテナの屋根（高さ約2.4m）に上り、コンパネを運んでいたところ、コンパネとともに地上まで墜落した。被災者はヘルメットを被っていなかった。	30199	1～9

2009	8	14 ～ 15	被災者は、木造2階建個人住宅外壁塗装工事現場において、午後の休憩の後、屋根の破風板の塗装作業を行うため、塗料缶を片手に持ち、住宅西側に設置の桝組足場（3層6スパン、高さ5.12m）の昇降階段を昇る途中、3層目の手前でバランスを崩し、昇降階段から4.35m下の地面に墜落、死亡した。昇降階段には、手すり及び交差筋かいはなく、足場には墜落防止措置が講じられていない箇所が認められた。	30209	1～9
2008	2	11 ～ 12	谷止工事現場において、被災者を含めた3名で工事に伴い伐採した風倒木（杉立木）を車両積載形トラックに積み込み、現場からの搬出作業を行っていた。被災者は、荷台側で玉掛け作業等を担当していた。その際、クレーンの荷台から後ろ向きにタラップを伝い地上に降りた時、そのまま後退し、後ろ向きのまま道路の端から川底（高さ約2m）に転落した。クレーンから被災者が転落した道路端までの距離は1.8mであった。	30108	10～ 29
2008	4	10 ～ 11	被災者は、客先の工場棟の屋上でペントハウス上に設置されている貯水槽の清掃作業を同僚1名と行なっていた。その際、当該貯水槽付近から約4m下の屋上床面に墜落して死亡した。なお、同僚は被災状況を見ておらず、被災者が墜落直前にいた位置は不明である。	150102	30～ 49
2008	6	13 ～ 14	アパート脇の立木の枝切りり及び下草除去作業で発生した枝葉の搬出作業中、作業場所付近に設置されていたフェンスごと約2.75m下のアパート駐車場に墜落した。	60101	1～9
2008	1	11 ～ 12	被災者は、電線の地中化に伴う引込み線の変更工事において、当該引込み線の取付作業のため、装着した「柱上安全帯」の主フック側を電柱に巻いて、当該電柱を登っていた。途中でケーブルテレビのBOXがある腕金をかわすため、同安全帯の補助フックを腕金のバンド締付けの金属棒にかけて主フックを外し、腕金を越えようとしたところ、手を滑らし、約7m下の道路面に墜落して死亡した。	30301	50～ 99
2008	1	11 ～ 12	電線の引込み線の切断作業中、電柱を登って手持ちグラインダーで線及び電柱に取り付けられているベルトを切断していたところ、足場を踏み外して高さ約5mの箇所から墜落して死亡した。	30309	1～9

2007	12	9 ～ 10	病院玄関前の天板清掃のため、天板を支えるパイプ上に足場を組む作業中に、高さ4.5mのパイプ上から墜落した。	150101	100 ～ 299
2007	10	11 ～ 12	住宅解体工事現場において、グラップルによりトタン屋根を解体する作業中、農道において監視人をしていた被災者が農道上で倒れているのが発見された。ヘルメットは側に落ちていた。	30202	1～9
2007	6	13 ～ 14	ゴルフ練習場の玉洗い場の解体工事の現場において、被災者が、フェンスのたる木を金づちでたたいて取り外し中に、前の用水路（深さ約1.3m）に転落した。	30309	1～9
2007	11	15 ～ 16	軽量鉄骨2階建て建物の外壁塗装を行うため、丸太だき足場上で屋根ハチマキ部のケレン作業を行っていたところ、4.7m下のコンクリート地面に墜落した。	30201	1～9
2007	10	12 ～ 13	建物解体作業中、隣地の駐車場との間の養生シートばらし作業のため、最上段（高さ4.68mの位置にある）の単管（長さ175cm、径5cm）を取り外そうとして、建地に取り付けられた昇降用タラップに足をかけていたところ、バランスを崩し約3m下のコンクリート上へ墜落した。	30209	10～ 29
2007	12	12 ～ 13	ビル改修工事現場にて、窓に貼った目張りシールを撤去中に、4階ベランダから墜落した。	30209	1～9
2007	12	2 ～ 3	外壁材の混合作業のための作業ステージ上（高さ約2.6m）で、材料荷揚げ口のスライド式安全柵を閉めようとしていたところ、安全柵ごと地面に墜落した。	10904	300 ～ 499
2007	7	23 ～ 24	事業場の駐車場から高さ約17m下の河川において、死亡していた被災者が発見された。被災者は、バケツの中にある花火の廃水を、当該駐車場から河川に捨てようとした際、手すり等が無かったため誤って墜落した。	140101	30～ 49
2007	5	9 ～	酸を含んだ水を中和するためのタンク（中和槽）の周囲一側面に高さ1.5mの金網が設けられており、被災者がその金網の内側（タンク側）に倒れて	10909	100 ～

		10	いるのを同僚が発見した。バルブ操作のために金網を乗り越えようとしてコンクリート製のタンク基礎に墜落した。		299
2007	7	8 ～ 9	盆踊り用の舞台を設置する作業において、組立中のやぐら（高さ約2.4 m）に乗り作業を行っていたところ墜落した。	30309	1～9
2007	9	10 ～ 11	被災者は、水銀灯増設工事に伴い建物から既設の水銀灯への引込電線（地上から8 mの位置にあった）を取り外すため、2階ベランダに脚立を設置し、ベランダ手摺りと脚立に足を掛けて電線を取り外した直後に墜落し、アスファルト舗装の地面に激突した。なお、保護帽は着用していなかった。	30301	10～ 29
2007	1	9 ～ 10	生コン工場の機械設備等解体工事において高さ5.78 mのミキシング室のブラケット張り出し足場の上に設置された操作室の解体をガス切断で行っていた時に、被災者と反対側のブラケットがはずれ落下し、その反動で被災者側の網鋼板が持ち上がり、作業床から墜落した。なお、被災者は安全帯を着用していたが、使用していなかった。	30209	1～9
2006	8	15 ～ 16	ステージセットの解体作業中、当該ステージ上、高さ約13メートルの位置にある作業床開口部から墜落した。	100109	1～9
2006	11	13 ～ 14	工事完了検査を行うことから、被災者は法面に残っていた測量のためのナイロンロープ2本を撤去するため、勾配約50度の法面を下りていたところ足を滑らし、法長31.2 m下の林道に転落した。	30106	1～9
2006	6	10 ～ 11	被災者は線路敷地内において、合計7人にて草刈作業を行っていた。被災者は線路脇の片付けを行っていたが、休憩に入り、各自個別に持ち場を離れて休憩をしていたところ、被災者が下におりようとして翼壁上を歩き、高さ6 mの地点から墜落した。	30199	1～9
2006	6	9 ～ 10	アパートの新築工事に付帯する駐車場の造成工事で、RC基礎を設けるためドラグ・ショベルによる掘削作業の近くで測量を行っていたところ、盛土された法の端から2.4 m下の隣地に転落した。	30201	1～9

2006	6	13 ～ 14	電柱に取り付けられた１段目の足場ボルト（電柱を昇降するためのステップ）上で、２段目の足場ボルトの取付け作業中、被災者が安全帯のフックをＤ環でなく、工具等を吊り下げるためのカラビナに取り付けていたことから、カラビナの安全帯への取付部分（クリップ）が破損し、高さ約２．５メートル下に墜落した。	30301	30～ 49
2006	4	14 ～ 15	電線の撤去作業において、通常は地上で撤去電線を取りまとめる等の地上作業を主として行っていた被災者が、仮設フェンスを越えた箇所で倒れているのが発見された。当初は意識があったが、被災者が不調を訴え病院へ搬送された後死亡した。	30301	1～9
2006	3	9 ～ 10	粉碎場の複数のバグフィルター塗装工事において粉碎場北西のフィルターの歩廊（高さ１０ｍ）と南西のフィルターの歩廊（高さ９ｍ）間には通路がなかったが、被災者は北西フィルターの歩廊手すりを乗り越え南西フィルターの歩廊へ渡ろうとした際、１０ｍ下のコンクリート床に墜落した。	30209	10～ 29
2006	3	16 ～ 17	被災者は高さ約２．８ｍの箇所にある壁のボード貼り作業を単独で行っていたが、離れた場所で作業していた職長が脚立の倒れる音を聞き、当該場所へ行ったところ、地面に脚立とともに被災者が倒れていた。	30201	1～9
2006	2	8 ～ 9	回収した廃船を修復し再使用するために、操船室の天井部分に設置されていたマスト（全高約６メートル）を根元部分で切断し、撤去する業務に補助者として従事していたところ、切断されたマスト（ワイヤロープを掛けて、リフティングマグネット式の重機により上方より繋がれていた）が振れて、それを避けようとした被災者が操船室の天井部分の作業床より約５メートル下の台船上に墜落した。	150102	1～9
2006	3	22 ～ 23	屋上で懸垂幕の取付け作業終了後に、高さ１．３８メートルの懸垂幕取付けフレームより屋上面に墜落した。ヘルメットは着用していなかった。	140309	30～ 49
2005	4	9 ～ 10	電気の引込線撤去工事において、電柱を登っていく途中、５ｍの高さから墜落した。	30301	10～ 29

2005	10	14 ～ 15	PC上部工工事において、高さ21mの作業床上にて片付け作業をしていたところ、地面に墜落した。	30105	1～9
2005	1	8 ～ 9	建物解体工事現場において、飛散防止用単管が完了している状態の1階下屋部分で、飛散防止用の養生シートを使用場所へ配付する作業中、安全帯を使用していなかったため、足を滑らせ転落した。	30209	1～9
2005	10	17 ～ 18	小学校の2階窓ガラスを清掃中、2階窓より地面に転落した。	150101	1～9
2005	3	10 ～ 11	工場の2階にあるロッカーを手で持って1階まで階段を使って下ろす作業中、ロッカーとともに階段を転落し、当該ロッカーの下敷きとなった。	170101	1～9
2005	11	14 ～ 15	8トン六脚消波ブロックの据付作業において、消波ブロックの上で据付場所の確認をしていたところ、バランスを崩して海中に転落、波にさらわれた。	30111	1～9
2004	12	13 ～ 14	スキー場内において、高さ11mの鉄塔に上り、照明の調整作業終了後、ロープを使用して下へ下りようとしたところ、地面に墜落した。	170209	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	橋面上において、ワーゲントラスを組立中に、主体トラスに安全帯をかけた状態で横つなぎ梁を組み立てる準備を行っていたところ、主体トラス（2.7t）が倒れ、橋面上から約20.5mの下地盤まで被災者が墜落した。	30105	10～ 29
2004	9	8 ～ 9	高さ約11mの、マンションの踊り場付近のパラペットに上り、隣の個人住宅の屋根に異常がないかを確認していたところ、誤って墜落した。	30202	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	橋脚建築現場の深礎杭施工で、ライナープレート（深さ14m、直径8m）内に設けた鉄筋にコンクリート打設用ブラケット足場を取り付け作業中、ブラケット足場用手すりの溶接をする際、安全帯での身体確保が十分に出来ず、	30106	50～ 99

			深礎杭底部に墜落した。		
2004	10	13 ～ 14	ビルの壁に設置された懸垂幕を、台風に備えて撤去する作業を行っていたところ、地上約19mの高さの塔屋部に設置された懸垂幕取付設備から地上に墜落した。	170209	1～9
2004	6	10 ～ 11	工事現場で、雨よけに使用しているプラスチック製の波形板に乗って家の外壁の塗装作業をしている際に、5.6m下の地面に墜落した。	30202	1～9
2004	8	10 ～ 11	鉄骨5階建て、倉庫新築工事において、本柱と本柱との間に間柱および耐風梁を取り付け作業中、地上約30mに設置されていたタラップから墜落した。	30201	10～ 29
2004	10	18 ～ 19	店外商品陳列棚の最上部に保管されていた土嚢袋（1束約20kg）を店内売場に移動させようと陳列棚によじ登り、土嚢袋を取り出そうとした際に墜落した。	80209	100 ～ 299
2004	5	3 ～ 4	集配業務に使用するプラットホームから下に転落した。	40301	30～ 49
2004	8	13 ～ 14	マンション新築工事現場において、3階部分へのコンクリート打設をするために、その近くの足場へ移ろうと壁用横筋に足をかけて躯（く）体側から渡ろうとしたところ、横筋と縦筋を固定している番線が切れて墜落した。	30201	1～9
2004	4	14 ～ 15	砕石プラントにおいて、砕石の搬入、搬出を行うダンプトラックが砕石プラントのベルトコンベア部分に接触するのを防止するための門（高さ約3m）を設置する作業を行っていたところ、門の上で作業していた被災者が墜落した。	10909	1～9
2004	11	11 ～ 12	木造建築工事現場においての足場解体作業中、躯（く）体ひさし上にて建地単管を解体し、下で解体した単管パイプを受け取るという作業を2人で行っていたところ、下でパイプを受けていた被災者が足を滑らせ、すぐ脇の擁壁（高さ約3.5m）から道路側へ墜落した。	30202	1～9

2004	12	11 ～ 12	木造家屋解体工事現場において、周囲への飛散防止のシート養生をするための骨組みを単管パイプで組立作業中、1段目の水平つなぎの単管パイプ上（高さ1.65m）で2段目の水平つなぎをクランプにて取り付けていたところ、墜落した。	30202	1～9
2003	12	13 ～ 14	事業所倉庫3階において、ラックの段数を変更する作業中にラック4段目の金属桁からコンクリート床面に墜落した。	80401	10～ 29
2003	12	11 ～ 12	マンション新築工事の3階壁のコンクリート打設で、壁型枠を支えている単管パイプ（高さ1.5～2m位）に足を掛けて壁型枠の叩き作業を行っていて床に倒れた。	30201	1～9
2003	8	11 ～ 12	ロータリーキルン（鉾石の水分を加熱脱水する設備長さ105m、直径4.8m）の投炭設備（ロータリーキルン内に石炭を投入する設備）のレベル検出装置の点検で、ロータリーキルンの点検口（60cm×60cm）の蓋を開け中の状況を見ていたときに、ロータリーキルン内に墜落し、スクープフィーダーとロータリーキルンのケーシングとの間にはさまれ下半身を切断された。	11109	100 ～ 299
2003	7	13 ～ 14	電柱から電柱へ共同アース線を取り付ける作業で、電柱に登って高さ10mの場所で電線の接続作業を行い、電柱から降りる途中でコンクリートの地面に墜落した。	30301	30～ 49
2003	6	10 ～ 11	刈払機を使用して事業場に隣接する会長宅の庭の草刈作業中に、庭の端部であるコンクリート擁（よう）壁から約7m下の河原に誤って転落した。	140309	1～9
2003	5	22 ～ 23	出張のため乗用車で自動車道を走行中に自動車が故障したため、車を降りて非常電話まで路側帯を歩いて行って非常電話で高速道路サービス隊に連絡してもどるときに、路側帯がせまくなっていることに気づかず道路橋の欄干から25m下に転落した。	170209	10～ 29
2003	5	11 ～ 12	電柱の高さ3.74mの個所に、太陽光連系表示板を取り付ける作業中に墜落した。	30301	30～ 49

2003	4	21 ～ 22	工場の敷地内において、プレス製品の部品番号の確認を行い作業場に徒歩でもどるときに、深さ約2.7mの側溝に墜落した。	11502	1～9
2003	3	9 ～ 10	住宅の造園工事において、庭に設置した脚立の4段目の踏棧とコンクリート塀とに跨って植木の道路側の面の枝切り作業を行っていたときに、脚立とともに2.38m下の道路に墜落した。	60101	1～9
2003	3	14 ～ 15	モルタル吹付用プラントを設置するため、林道路肩の崖側に置かれていた残資材の片付け作業を行って作業場所から休憩場所に向かっていたときに、林道から崖下へ約20m墜落したのち雪面を谷に沿って約400m滑落した。	30108	10～ 29
2003	2	14 ～ 15	貨物船（59t）の船底船尾ブロックの製造作業で、船底に付いているつりピースをガス溶断しているときに、6.7m下のコンクリート土間に墜落した。	11501	10～ 29
2003	1	11 ～ 12	木製電柱をコンクリート製電柱に建替える工事において、木製電柱の高さ7.63mの個所で引込線の取り外し作業をしていたときに、電柱の根元が折れて電柱とともに墜落した。	30301	1～9
2002	12	14 ～ 15	マンションの駐輪場において、脚立を閉じた状態で立て掛けて地面より2.5m上に設置されている電灯（直管蛍光管）の交換中に転落した。	150101	300 ～ 499
2002	12	15 ～ 16	梱包用資材をストックしている棚の最上段（高さ2.5m）から梱包用資材を地上に降ろす作業中に、コンクリート床に墜落した。	170209	1～9
2002	12	13 ～ 14	立体駐車場の解体作業において、昼食が終わって午後の作業場所に向かうため、既設リフトの点検用垂直梯子を昇降しているときに17m下に墜落した。	30201	100 ～ 299
2002	11	14 ～ 15	植木の剪定作業のため、塀（幅16cm）に上ったときに1.68m下に墜落した。	60101	1～9

2002	11	14 ～ 15	邸宅の解体工事において、養生ネットを張るため設置していた丸太を解体し ていて約5mの高さから墜落した。	30209	30～ 49
2002	11	19 ～ 20	一部崩壊した道路の危険防止のため、強風により倒れている囲い（プラス チック製）を起こしたのち囲いの中に入り固定する資材を探しているとき に、崩壊した穴（6.5×3.1m、深さ1.3m～3.4m）に墜落した。	30106	10～ 29
2002	7	16 ～ 17	中学校体育館の解体工事において、近隣への騒音対策として枠組足場に取り 付けて設置しておいた防音パネルを4段目の作業床で上部のパネル （90×180cm 重さ約10kg）を取り外そうとしたところ、下部パネルも同 時に外れてパネルごと7.12m下に墜落した。	30209	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	有線放送用ケーブルの架線工事で、電柱の地上から約4.5mの高さで作業を 行っていたときに、電柱から墜落し、さらに約43mの崖下まで転落した。	30301	1～9
2002	7	13 ～ 14	路盤コンクリートの型枠パネルの荷下ろし作業で、事前に高架橋の荷下ろし 材料の位置を確認し高架橋より地上に降りようとしたときに、架設通路最上 部の筋交いを乗り越えて約15m下に墜落した。	30105	50～ 99
2002	4	16 ～ 17	建物3階の型枠解体のため、4尺脚立に上り梁と壁の間のスラブ型枠を 解体していたときに、脚立が転倒して落下し頭部に激突した。	30201	10～ 29
2002	1	8 ～ 9	吐水槽躯体工事の外部足場解体前の養生用屋根撤去作業で、手すりとクリア シートを約半分まで撤去を終えたときに、クリアシート撤去後の開口部（幅 110cm）から墜落し、11.8m下の吐水槽底のコンクリート面に激突した。	30199	1～9
2001	11	17 ～ 18	ビル9階の廊下の窓から、同ビルの3階の屋根部分に約17m墜落した。	30203	30～ 49
2001	10	8 ～	副原料タンクを取り付けるため、高さ5.80mの鉄骨上で準備作業を行ってい て墜落した。	30309	1～9

		9			
2001	12	11 ～ 12	会館の解体で解体物の飛散を防ぐため建物の周囲にシートを張るための鋼管組み立てを行っていて、高さ11. 9mの鋼管の上から墜落した。	30209	100 ～ 299
2001	9	15 ～ 16	低温倉庫の外部改修工事において、外部足場の部材等の片付け作業をしていたときに、足場からアスファルト地面に転落した。	30209	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	建屋の解体工事において、電柱5本撤去のため古い木製電柱(高さ10m直径22cm)に登り電線を外す作業中に、電柱が根本から折れ電柱とともに墜落した。	30301	1～9
2001	6	13 ～ 14	植木の植栽帯で刈込鋏を使用して高さ3・5m、幅1・2mのきんもくせいの刈込を行っていて、転落した。	60101	1～9
2001	6	10 ～ 11	用水用仮橋梁桁に信号ケーブル用鋼管を取り付けるため桁端部のバラスト上で鋼管の据付状況を確認していたときに、バランスを崩して約0. 95m下の土間に落下、さらに、そこから法面を滑って約1. 1m下の川に滑落した。	30106	100 ～ 299
2001	4	9 ～ 10	曲げ作業で使用するパレットが無くなったので、フォークリフトを使用してラック上のパレットを卸そうとしたがラック前に物が置いてあるためフォークを前に出せなかったため、ラック上部に登りパレットを引き出そうとして足を滑らせ約2. 2m下に転落した。	11209	10～ 29
2001	3	8 ～ 9	出勤後、プール周辺の清掃と駐車場シャッター及びバリカーの開放作業を行い、その後、1階北側のドライエリア、グレイチング部のゴミを取り除こうとグレイチングの上に乗ったときに、グレイチングが外れ5m下の地下1階に転落した。	120109	1～9
2001	3	8 ～ 9	建物1階のドライエリア(地下への機材搬入のためのスペース)を覆っていたグレイチング上に乗ったときに、仮置きグレイチング1枚(約90cm×90cm、重さ約22. 6kg)とともに約5m下の地下1階床部分に墜落し	170209	1～9

			た。		
2001	3	0 ～ 1	客の注文により冷凍庫内へ商品(重量5kg1個)を取りに行ったまま戻ってこないのを見に行くと鼻血を出して倒れていた。(他の商品等を足場にしながら上がろうとして転落したものと推定)	80109	1～9
2001	3	15 ～ 16	製材工場の休憩室にある薪ストーブの煙突掃除のため、煙突に近接した位置にある塀に木製梯子を立て掛け塀に乗り、掃除に取り掛かろうとしたときに、足を踏み外して1.7m下の町道に墜落した。	10401	1～9
2000	3	9 ～ 10	駐車場の新設工事において、型枠の建ち上げ作業のためにパイプサポートの設置作業中に、工事現場と水路に接する幅175cmの平地の端から深さ7.5mの水路の底へ転落した。	30209	1～9
2000	11	21 ～ 22	建物の改修工事において、4階の窓に鋼鉄製のステージ(長さ2.5m、幅1.35m)を設置し、地上で移動式クレーン、4階でフォークリフトを使って資材の搬入を行っていたときにフォークリフトがステージに当たってステージがはずれたため、ステージから約12m下の地上に墜落した。	30201	1～9
2000	5	9 ～ 10	トラクター・ショベルで砂を「とおし」と呼ばれる鉄製のふるいにかけて、石や草などのゴミ等を取り除いたのち混合し新幹線の枕木を製造するための生コンクリート用砂を作る作業中に「とおし」につまった草等を取り除くためトラクター・ショベルのバケットで「とおし」を持ち上げその上で草等を取り除いていたときに「とおし」が外れて下敷きになった。	40301	10～ 29
2000	3	0 ～ 1	倉庫内の天井クレーン(吊り上げ荷重2.8t)の修理の下見のため、壁面に取付けられたH型鋼に足をかけてクレーンガーダ(高さ約7メートル)まで上がり、クレーンの状態を確認したのち降りる途中で鋼高2.8メートル下の床面に墜落した。	11203	1～9
2000	12	16 ～ 17	製品保管ラックの最上段(高さ334cm)に積み上げられたパッケージケース(ダンボール箱、質量約12～13kg)を出荷するため、フォークリフトを棚の横に停車させてパレット最上段へ昇って一番上のケースを降ろしているときに墜落した。	50101	10～ 29

2000	10	9 ～ 10	外部足場の養生朝顔取付作業で、桝組足場9段目の西南コーナーで朝顔の取付作業中にバランスを崩して約16m下へ墜落した。	30201	10～ 29
2000	10	14 ～ 15	落石防止用の金網設置工事において、仮付けされた金網を縦方向に固定するための補助ワイヤーロープの本留め作業中に墜落した。	30199	1～9
2000	11	17 ～ 18	9階建ホテル屋上の排気装置の補修工事予算要求資料を作成するため、屋上で排気装置の写真を撮影していたときにあやまって高さ30mの屋上から墜落した。	140101	10～ 29
2000	12	7 ～ 8	ホテルで、チェックアウト後の火の元などの確認中に、2階客室で換気のために窓を開けているときに窓から約4m下のコンクリート面に転落し、さらに近接する水路に落ちた。	140101	1～9
2000	3	16 ～ 17	引越し作業において、階段が狭いので冷蔵庫をロープで3階から2人で下ろしていたところ、1人が冷蔵庫とともに高さ7.05mの窓から公道のアスファルト上に墜落した。	40301	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	廃液処理工場において、硫酸銅に消石灰を加えて中和させる槽(直径3.22m、深さ3m)のモーターのグリースアップを終えて戻る途中、槽のアクリル製の蓋を踏み抜いて蓋とともに深さ2.15mの液体の入った槽の内部に墜落した。	150102	10～ 29
2000	5	9 ～ 10	観客スタンドのベンチ取付け作業のため、コンクリート製スタンドの型枠を解体していた時に空調設備設置用の開口部(1m×0.7m)の蓋を踏み抜き5.1m下のコンクリート床に墜落した。	30201	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	前年度に掘削を終了した立坑の覆工板受けの中間桁が、取外し可能かどうかを1枚の覆工板を外して確認し、桁の上に落ちている碎石を取除こうとしたときに約11m下に墜落した。	30110	10～ 29
1999	5	15 ～	林道災害復旧工事現場において、コンクリート擁壁の型枠材に足を掛けて型枠の組立作業を行っていたときに、バランスを崩して張り出し足場(高さ3m)	30106	10～ 29

		16	の上に墜落し、さらに足場の手すりの間から地上に転落した。		
1999	5	10 ～ 11	砂防(堰堤)工事現場において、6名が堰堤下で残土処理、片付処理などを行っていて、落石に備えて堰堤上の山道上で見張りをしていた者が約16m下の堰堤付近に連絡した。	30199	1～9
1999	10	8 ～ 9	呑口桧の型枠解体作業で溝に溜まった雨水を排出するための排水路をバックホウで開削したのち、排右旋回したところ樹木が障害となりできなかったの で左旋回したところ、コールゲートパイプ上にいた者がコールゲートパイプから地面に墜落した。	30199	1～9
1999	6	9 ～ 10	公園内の公衆便所の壁面等を掃除するため、洗面台に上がり作業をしていたときに、洗面台がぬれていたため足を滑らし、床に転落して頭を強打した。	150109	10～ 29
1999	1	9 ～ 10	道路整備工事において、法面の岩石落下防止用のフェンス張りを行うための準備で、安全帯をフェンスの金網に掛けながら地山を横方向に移動中に約20メートル下の県道に墜落した。	30106	1～9
1999	4	15 ～ 16	現場事務所に電話配線を行うため、工具棚上のカラーボックスの上にあっがたときに、カラーボックスの天板を踏み抜いて高さ約1.6メートルのところから墜落した。	30301	1～9
1999	3	9 ～ 10	ドラグショベルでグレーチングを吊りピットに設置作業で、いったん被せたグレーチングの上に乗って調整しているときに、グレーチングがピットの肩から外れ、かつ、グレーチングを吊っていたワイヤーロープも外れたためピット内に墜落した。	30199	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。